

# 鹿児島県 有機農業情報

No. 14 H27.7

発行：農業開発総合センター  
〒899-3401

南さつま市金峰町大野2200

TEL 099-245-1118

FAX 099-245-1116

## 新たな「鹿児島県有機農業推進計画」について

(食の安全推進課 099-286-2891)

平成26年4月、国は有機農業推進法に基づく「有機農業の推進に関する基本的な方針」の見直しを行いました。これを受けて、県では、有機農業推進に係る基本的な考え方を示した「鹿児島県有機農業推進計画」を平成27年3月に改定しました。

県では、今後、本計画に基づき、関係機関・団体等と連携して、環境と調和した農業の一翼を担う有機農業のさらなる推進を図ることとしています。

今回は、新しい「鹿児島県有機農業推進計画」のポイントを紹介します。

### 1 有機農業の推進及び普及の目標の設定

- (1) おおむね平成31年度までに、本県の経営耕地面積に占める有機農業取組面積の割合を1.3%にします。
- (2) 地域の気象や土壌特性に適合した生産技術の導入、消費者の理解増進、市町村における有機農業の推進体制を整備します。

### 2 有機農業の推進に関する施策

- (1) 有機農業者等の支援
  - ・県は、円滑に有機農業を開始できるよう、新規就農者に対する就農相談や技術指導を支援します。
  - ・共同利用機械・施設の整備等の支援や、環境保全型農業直接支援対策の活用を進めます。
- (2) 流通・販売面の支援
  - ・県は、有機農業者やJA・有機農業生産組合等に対し、商談会等、流通・販売関連情報を提供します。
- (3) 技術開発等の促進
  - ・農業開発総合センターでは、有機農業に利用可能な農業技術の開発に努めます。
- (4) 消費者の理解と関心の増進
  - ・有機農業が持つ様々な機能や有機JAS制度の表示ルール等に関する情報提供及び普及啓発を図ります。
  - ・食育や地産地消、農業体験学習等による消費者と有機農業者との相互理解を増進します。

### 3 対象期間

平成27年度から、おおむね5年間を対象とします。

有機農業で活用できる試験成績等の紹介

## 「ポット植えソルゴーを使った土着天敵類の生息状況確認法」

(農業開発総合センター生産環境部 099-245-1155)

有機農業における害虫防除は、土着天敵類を有効利用することが大切です。ここでは、これから有機農業を始めるほ場周辺の土着天敵類の有無を確認する方法を紹介します。

ワグネルポット等を用いて、施設内で栽培したソルゴー（品種：三尺ソルゴー）を周囲の環境が異なる露地3地点に設置し（設置時の草丈は50～70cm）、ポットごとにヒエノアブラムシや土着天敵類を調査しました。

その結果、設置後1～2週間目にヒエノアブラムシの発生程度が地点により異なる傾向で、ヒエノアブラムシの発生後は、土着天敵であるヒラタアブ類やテントウムシ類の発生にも違いがみられました。

このように、比較的若いソルゴーをほ場に設置し、設置後2週間頃までの虫の発生様相を観察することで、土着天敵の生息状況を確認できます。

これら土着天敵類の生息状況確認法は、栽培前だけでなく、栽培後も同様の調査を行うことで、よりの確な土着天敵類を利用した害虫防除に資することが可能です。



図1 ポット植えのソルゴー（草丈55～70cm、茎径約1.4cm。野外に設置）

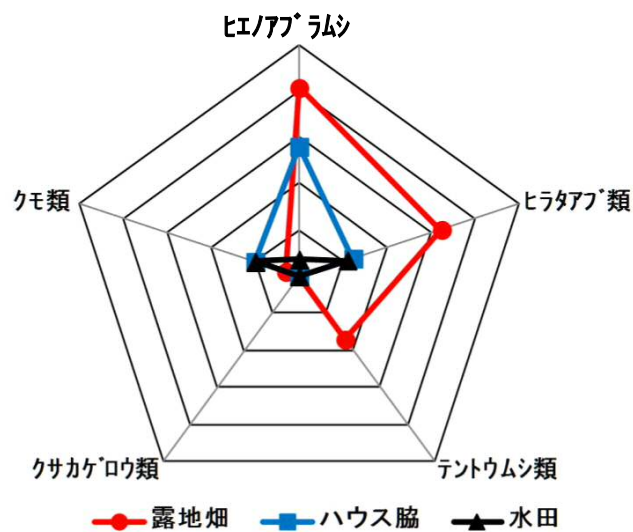


図2 設置地点ごとのヒエノアブラムシと土着天敵の発生量の比較（設置15～20日後）

注）作図の中心は「発生無し」、外周ほど「多い」。五角形の形と面積で事前評価

有機農業で活用できる試験成績等の紹介

## 「サイクロン式吸引洗浄装置を利用した茶栽培体系」

(農業開発総合センター茶業部 0993-83-2811)

### 1 はじめに

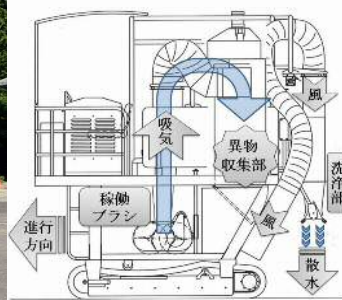
本県では、消費者ニーズに対応した「クリーンなかごしま茶」づくりを推進しています。その一つとして、化学農薬の使用をなるべく削減し、その他の様々な手段を用いる総合的病害虫管理を進めています。サイクロン式吸引洗浄装置は、農業開発総合センター茶業部と松元機工（株）が共同で研究・開発したもので、本装置を活用することで茶の主要病害虫の被害を軽減し、化学農薬に依存しない防除体系を構築することが可能です。

### 2 サイクロン式吸引洗浄装置の概要

本装置は、乗用型の管理機械で、機体中央下面に取り付けた回転ブラシで摘採面に散在する異物や病葉、害虫等を剥離しながら吸引し、機体後方から水を高圧散水することにより残った異物を樹冠下に落下させる構造です。



装置写真



概略図

### 3 病害虫防除効果と年間防除体系

本装置を病害虫の発生時期に複数回処理することによって、炭疽病、チャノミドリヒメヨコバイ、カンザワハダニおよびチャノナガサビダニ等の被害を軽減することが可能です（図1，2）。

具体的な年間防除体系は図3に示すとおりです。カンザワハダニに対しては、秋整枝後から一番茶萌芽前にかけて、炭疽病やチャノミドリヒメヨコバイに対しては、二番茶から秋芽生育期の新芽生育初期に重点的に稼働することが防除効果を高める上で重要です（図3）。

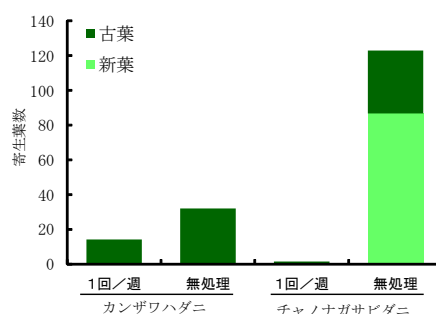


図1 本装置のダニ類に対する防除効果

月	10月	2月	3月	5月			6月~7月			8月~9月		
茶期				二番茶生育期			三番茶生育期			秋芽生育期		
防除時期	秋整枝後	春整枝前	萌芽前	0.5葉期	1.5葉期	2.5葉期	0.5葉期	1.5葉期	2.5葉期	0.5葉期	1.5葉期	2.5葉期
対象病害虫	カンザワハダニ			炭疽病・チャノミドリヒメヨコバイ等								

図3 年間防除体系

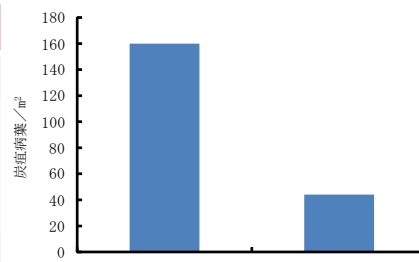


図2 本装置走行前後の炭疽病葉数

### 4 さいごに

「安心・安全」な茶の供給や輸出に対応できる茶の生産等、本装置の活用場面はさらに拡大することが見込まれています。茶業部では装置の性能向上やより効果的な活用方法の検討や、自動走行等の試験を松元機工（株）や日本計器鹿児島製作所、現地の茶業者とともに進めており、本機の高度利用化を図っていくこととしています。

有機農業において緑肥は、とても有益な作物です。緑肥は、土壌流亡を防止（カバークロープ）する効果、連作障害を回避する効果、土壌の保水性や排水性、保肥力を改善する効果などを有します。

平成26年度は、新規就農者や実証ほ設置農家の意向を踏まえて、緑肥のクリーニング作物、有害線虫密度抑制作物としての効果を実証しましたので、その成果を紹介します。

### 1 クリーニング作物としての効果

施設ハウスほ場において、7月上旬にイネ科の緑肥であるソルゴー（品種：つちたろう）をは種しました。は種約40日後の8月中旬に刈り取り、ハウスほ場外に持ち出しました。緑肥栽培後の土壌の石灰や苦土などの塩基含量は、栽培前に比べて減少し、除塩効果が確認できました。今回の実証による肥料成分の10a当たり減少量は、カリが9.3kg、石灰が3.0kg、苦土が4.0kg、リン酸が5.0kgと試算されます。

表 緑肥による土壌理化学性的変化

	pH	EC mS/cm	mg/100g乾土			
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	有効態リン酸
作付け前	5.8	0.18	172	19.7	13.3	7.0
作付け後	5.4	0.08	169	15.7	4.0	2.0



写真 は種40日後のソルゴー生育状況

### 2 有害線虫密度抑制作物としての効果

露地野菜ほ場において、8月上旬に、マリーゴールド（品種：アフリカントール）、エン麦（品種：ハイオーツ）、ソルゴー（品種：つちたろう）をは種しました。これら緑肥のすき込みを10月中旬に行い、栽培前後のネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ等の有害線虫密度を調査しました。

その結果、緑肥区の栽培前と栽培後では、これら有害線虫数の減少が確認されました。

特に、今回の結果では、マリーゴールドの有害線虫密度抑制効果が高い結果となりました。

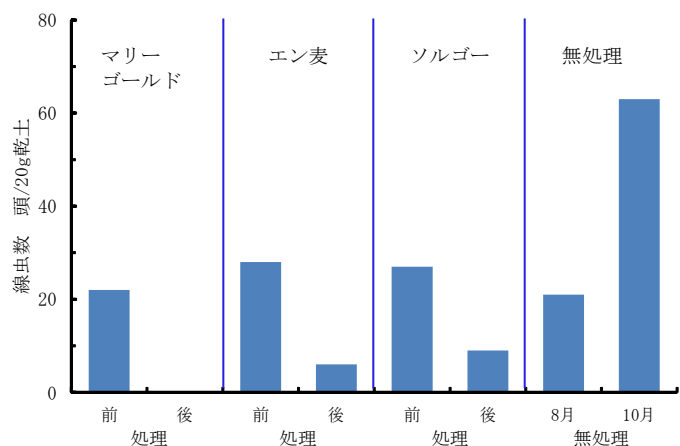


図 緑肥による有害線虫密度抑制

### 3 さいごに

有機農産物の収量向上や高品位生産を図るため、目的とする効果を発揮する緑肥を作付けしてください。